

Ⅲ 学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅲ-3 ふりかえろう・子どもとの接し方

対象：学童期の子どもをもつ保護者
時間：50分程度

ねらい	子どもとの接し方を振り返ることにより、子どもの人権について考える。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの気持ちになるように役割演技をし、自分の言動を振り返ることができる。 ○ 他の人が考えている「理由」をたくさん聞くことにより、子どもの人権に配慮した接し方について考えることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3人(又は4人)組になれる席の配置をする。全員が立てるだけのスペースを空けておく。 ○ 資料 ○ 筆記用具 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 5分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・仲よし同士ばかりが一緒にならないようにアイスブレイクを行い、3～4人のグループをつくる。	
展開 10分	ワーク1 ・エピソード①を読む。 ・役割演技をする。 ・感じたことを書く。 ・グループで話し合う。 ・何人が発表する。	◎日頃の親の言動で、子どもを傷付けることもあることに気付くことをねらいとする。 (1グループに5人以上の場合は、観察役の人数を増やす) ※役割演技は、その場の雰囲気によって内容を自由にしてもよい。 ・それぞれの役の立場で感想を書き、話し合うよう伝える。 ・最後に、「子どもを、 <u>・・・だからと決めつけて見ていることはないか。</u> 」ということを問いかける。	
	10分 ・エピソード②を読む。 ・春男の気持ちを考え、シートに書く。 ・考えた言葉を紹介し話し合う。 ・何人が発表する。	・グループで春男の気持ちについて話し合う。 ・「真由美をほめているだけなのに、春男がとてもつらい」「友達ばかりをほめることも同じ」「片方をほめることは、もう一方は比べられていると感じている」ことをみんなで確かめ、最後にねらいを共有する。	
20分	ワーク2 ・自分の思いをシートに○を付ける。 ・ディレンマ・ゲームをする。	◎他の人の意見を聞くことにより、子どもの人権に配慮した接し方について考えることをねらいとする。 ・意見が割れている項目をいくつか選んで、ディレンマ・ゲームを行う。 ・時間がある場合には、すべての項目を行う。	資料
まとめ 5分	ふりかえり ・資料の説明を聞く。 ・全体に関する感想を出し合う。 ・ふりかえりを書く。 ・何人が発表する。	・子どもの人権に関わるものがたくさんあることに気付いてもらうよう説明する。 ・ふりかえりでは、今後取り組もうとすることを書き、何人かに発表してもらうことにより、考えを共有し、実際の行動へと促すようにする。 ・最後に、「家庭が、子どもの人権感覚をはぐくむ大切な場である」ことを伝える。	

※ 実施時間の関係から、ワーク1のみ又はワーク2のみの実施も可能である。